

大橋川沿川における現況景観について

1. 大橋川沿川の現況景観に関する整理・分析の流れ.....	1
2. 大橋川の現況把握調査について.....	2
3. 大橋川沿川の景観要素の整理.....	3
3-1. 景観要素抽出の考え方.....	3
3-2. 観光・歴史面からみた景観要素.....	4
3-3. 生活・文化面からみた景観要素.....	6
3-4. 自然面からみた景観要素.....	8
4. 大橋川の現況景観のまとめ.....	10
4-1. 景観を構成する要素の整理.....	10
4-2. 大橋川の景観特性の整理.....	11
5. 景観特性を踏まえた事業実施のポイント.....	16

平成 18 年 1 月 26 日

1. 大橋川沿川の現況景観に関する整理・分析の流れ

大橋川沿川の現況景観に関する整理・分析は、以下の手順により行った。

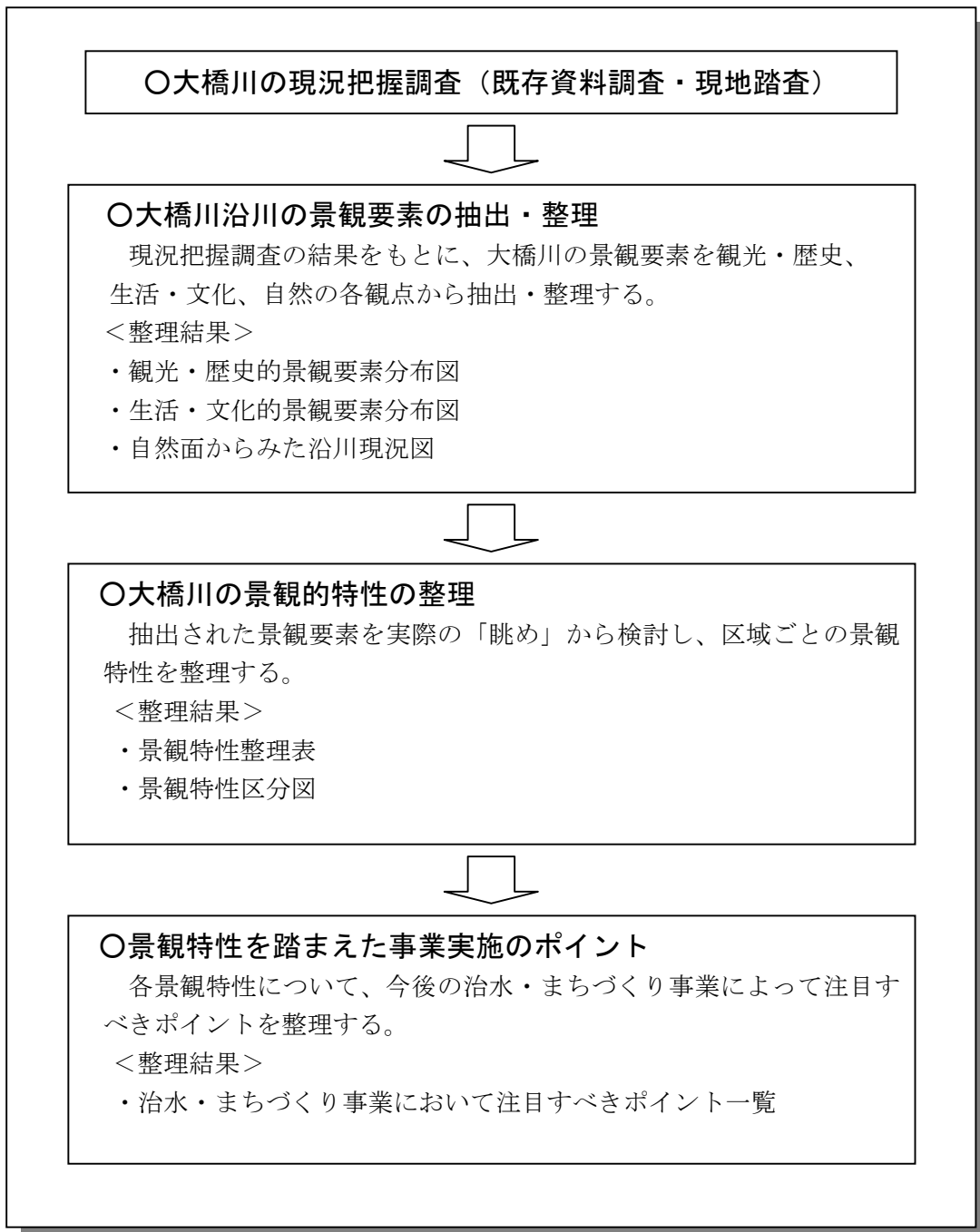


図 1-1 整理・分析の流れ

2. 大橋川の現況把握調査について

大橋川沿川の現況把握にあたっては、現地踏査による写真撮影を行うとともに、既存資料の収集および既往アンケートからの情報収集を行った。

以下に、既往アンケートの概要ならびに大橋川に関する部分のアンケート結果をまとめる。

①調査の概要

- ・アンケート名：NPO 法人まちづくりネットワーク島根が実施した「宍道湖周辺の水辺まちづくりアンケート」
- ・調査目的：公共事業と住民の関わり方について、住民の視点で「宍道湖周辺の水辺まちづくりアンケート」を実施し、地域住民の「声」としてのとりまとめを公表することで、今後のまちづくりのあり方やNPOとしての活動の方向性を検討する。
- ・調査対象箇所：宍道湖周辺の7箇所。 斐川なぎさ公園、 宍道湖グリーンパーク、 秋鹿なぎさ公園、 堀川（堀川めぐり）、 大橋川、 岸公園（県立美術館）、 嫁ヶ島残照
- ・調査地区：宍道湖周辺5市町（松江市、平田市、斐川町、宍道町、玉湯町） インターネットアンケート（広域）
- ・調査方法：会員・協力者による戸別（無作為抽出）の配布・回収（土日利用）、インターネットによる回答
- ・調査期間：平成16年10月30日～平成17年1月15日
- ・回収数：紙面アンケート608、インターネットアンケート26 計634

②アンケート結果

大橋川に関わるアンケート項目から把握できた大橋川に関する周辺住民の意識は以下のようなものであった。

大橋川に関する周辺住民の意識

- ・大橋川が好きな理由として、4割近くが「景観の良さ」を挙げ、もっとも多い理由となっている。
- ・大橋川は、約9割の住民が知っている。
- ・大橋川には約8割の住民が実際に行っており、調査対象箇所の中ではもっとも高い率となっている。
- ・大橋川には3割の住民が「よく行く」と答えており、散策に利用されることが多い。

<好きな理由（主な自由意見）>

- ・街中で落ち着ける場所
- ・周囲の店に寄り道しながら散歩が楽しめるので
- ・多様な生物が多く棲み、他県に誇れる川だと思う
- ・川沿のヤナギが素敵
- ・漁など生活の歴史を思いおこさせる
- ・レガッタの会場として楽しんでいる 他

<良くない点>

- ・水面のごみ
- ・護岸が汚い

3. 大橋川沿川の景観要素の整理

3-1. 景観要素抽出の考え方

既往アンケート分析から示されるように、大橋川は「国際文化観光都市 松江」のシンボリックな存在として長年、市民から愛されてきた。よって、現状の景観の把握にあたっては、大橋川とともに観光都市として成長してきた松江市の観光・歴史面はもとより、シジミ漁やゴズ（ハゼ）釣りなどとして利用される大橋川を市民の生活面から、また、ラムサール条約に登録された中海・宍道湖をつなぐ豊かな自然環境の面からも検討し、各観点で景観要素の抽出・整理を行った。

表 3-1 大橋川の景観を構成する景観要素

観点	具体的な要素	
観光・歴史	有形的要素	<ul style="list-style-type: none"> ・観光施設 ・神社・仏閣(古墳含む) ・橋梁 ・老舗旅館
	無形的要素	<ul style="list-style-type: none"> ・祭り・イベント ・遊覧船の運航 ・舟運（歴史的・観光的特徴をもつもの）
生活・文化	有形的要素	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺の建造物（宅地・集落、商業施設等） ・沿川道路 ・護岸
	無形的要素	<ul style="list-style-type: none"> ・シジミの漁場 ・レクリエーションの場（散策、釣り） ・舟運（人・物資の移動）
自然	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物 ・農用地 ・公園・緑地 ・大橋川の水面 ・稜線 	

なお、現況分析にあたっては、大橋川改修事業について記載した「大橋川改修の具体的内容 平成16年12月(中国地方整備局、島根県、松江市)」と同様に、全川を以下の3つに区分し分析を行った。

【上流部】松江市の中心市街地部にあたる：宍道湖大橋～くにびき大橋

【中流部】剣先川、朝酌川などに挟まれた形で中の島や中州が位置する：くにびき大橋～朝酌川合流点

【下流部】朝酌川合流点～中海大橋



3-2. 観光・歴史面からみた景観要素

観光・歴史面からみた景観要素としては、現存する集客施設や歴史的建造物等とともに大橋川を舞台として行われる各種行事や観光イベントを対象とし、抽出した。

表 3 - 2 観光・歴史面からみた景観要素

上流部	<ul style="list-style-type: none"> ・約 400 年前に初代の橋が架けられてから 17 代目となる大橋は「水郷松江」の象徴的な施設の一つとして位置づけられる。 ・左岸側には、老舗旅館など、歴史的建造物が位置する。 ・散策などのスポットとなる「源助柱記念碑」などのポケットパークが立地する（第 6 回島根景観賞まち・みどり部門奨励賞受賞）。 ・大橋川の北側（通称：橋北地区）1 km 程度の圏内には、松江城、松江郷土館、武家屋敷、普門院、カラコロ工房など、市を代表する観光資源がある。また、南側（通称：橋南地区）1 km 程度の圏内には、売布神社をはじめとする神社や多くの寺院が建ち並んでいる。 ・毎年秋に、伝統行事「松江祭鬻行列（どうぎょうれつ）」が行われる。 ・毎年、夏の風物詩である「水郷祭」が宍道湖とその周辺で行われる。 ・宍道湖観光遊覧船の発着場が位置し、遊覧船が航行する。
中流部	<ul style="list-style-type: none"> ・右岸側の松江港が宍道湖観光遊覧船の発着場となっており、遊覧船が航行する。
下流部	<ul style="list-style-type: none"> ・神在月 10 月に佐太神社より神々が集まるとされる多賀神社や境内北側にある魚見塚古墳が左岸側に位置する。 ・右岸側に前方後円墳としては出雲地方で第二の規模を誇る手間古墳や石屋古墳などがある。 ・右岸よりの河道内に塩橋島が位置する。島内には手間天神社がある。 ・出雲国風土記にも記述が残る古くからの歴史を持つ渡し舟「矢田の渡し」がある。住民の足としての渡船事業が現在も継続される一方で、現在は観光船の機能をもった大橋川周遊遊覧船が発着する。
全区間	<ul style="list-style-type: none"> ・12 年に 1 度しか行われない日本三大船神事であるホーランエンヤの会場となる。

松江郷土館（興雲閣）



松江城二の丸に建つ明治建築の洋館。1903年に完成した県内に残る数少ない明治建築で、1907年には大正天皇のご宿泊所として使用された。現在は松江市の文化資料館として利用されている。

武家屋敷



約270年前の松江藩中級藩士が屋敷替えによって入れ替わり住んだ武家屋敷。当時の家具調度品、生活用具が展示され、武家の暮らしが偲ばれる。また小泉八雲の旧家もあり、周辺は市の伝統美観保存地区に指定されている。

松江城



堀尾吉晴により1611年に築城される。城下町・松江のシンボルとして親しまれ、鳥が羽を広げたように美しいことから別名「千鳥城」と言われる。現在は国の重要文化財に指定されている。

普門院



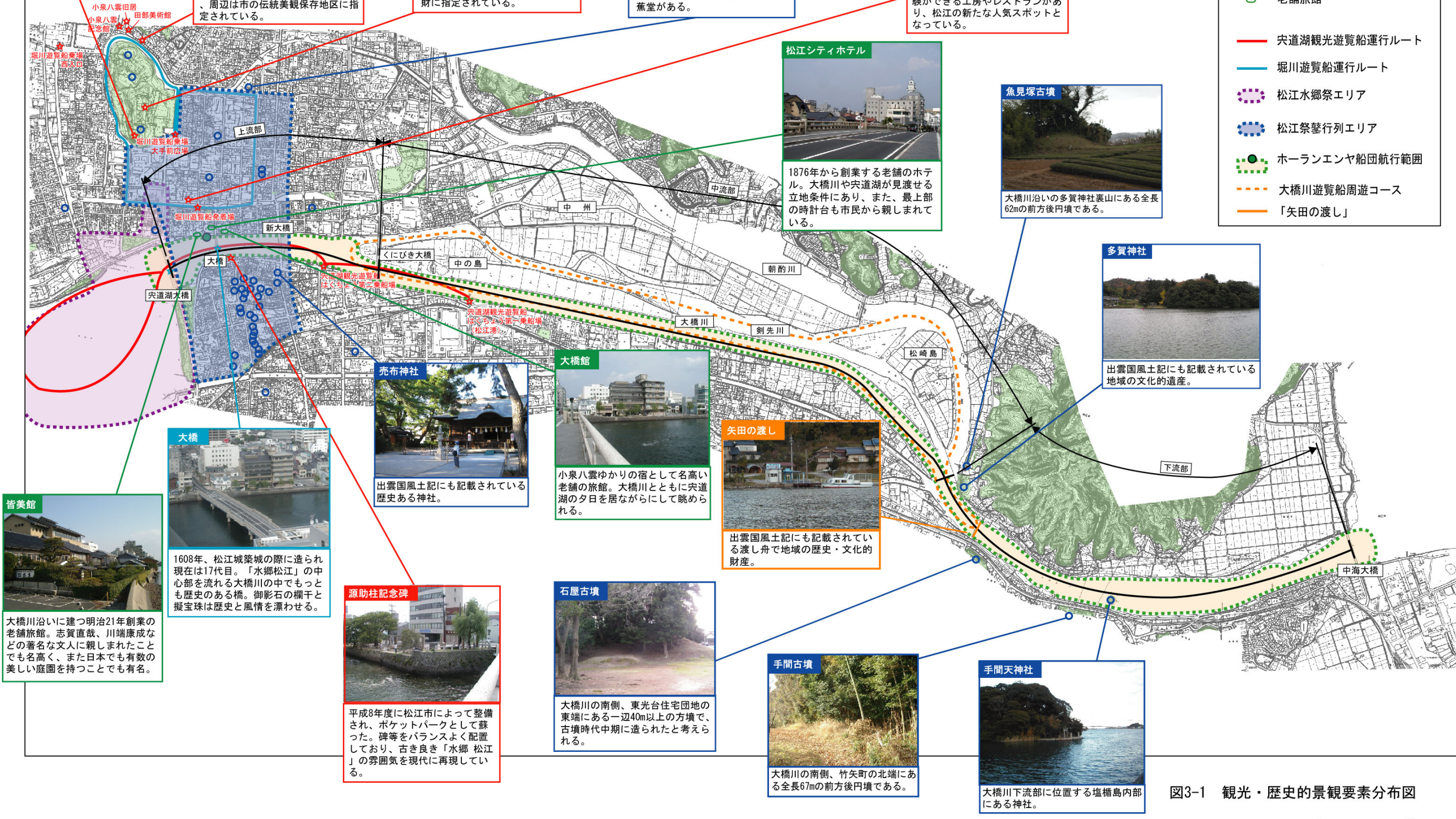
松江城鎮護の寺。小豆とぎ橋で謡曲杜若（かきつばた）をうたうと恐ろしいことが起こるといふ伝説があり、小泉八雲の怪談でも紹介している。また、茶室観月庵、芭蕉堂がある。

カラコロ工房




旧日銀松江支店の建物を修復し、「匠」をテーマにリニューアルした製造・販売一体型の工芸館。館内には和菓子や各種小物の製作体験ができる工房やレストランがあり、松江の新たな人気スポットとなっている。

- 凡例
- 神社・仏閣（古墳含む）
 - ★ 観光施設
 - ☆ 橋梁
 - 公園・緑地
 - 老舗旅館
 - 宍道湖観光遊覧船運行ルート
 - 堀川遊覧船運行ルート
 - 松江水郷祭エリア
 - 松江祭行列エリア
 - ホーランエンヤ船団航行範囲
 - 大橋川遊覧船周遊コース
 - 「矢田の渡し」



松江シティホテル



1876年から創業する老舗のホテル。大橋川や宍道湖が見渡せる立地条件にあり、また、最上部の時計台も市民から親しまれている。

魚見塚古墳



大橋川沿いの多賀神社裏山にある全長62mの前方後円墳である。

多賀神社



出雲国風土記にも記載されている地域の文化的遺産。

売布神社




出雲国風土記にも記載されている歴史ある神社。

大橋館



小泉八雲ゆかりの宿として名高い老舗の旅館。大橋川とともに宍道湖の夕日を居ながらにして眺められる。

矢田の渡し




出雲国風土記にも記載されている渡し舟で地域の歴史・文化的財産。

皆美館




大橋川沿いに建つ明治21年創業の老舗旅館。志賀直哉、川端康成などの著名な文人に親しまれたことでも名高く、また日本でも有数の美しい庭園を持つことでも有名。

大橋



1608年、松江城築城の際に造られ現在は17代目。「水郷松江」の中心部を流れる大橋川の中でもっとも歴史のある橋。御影石の欄干と擬宝珠は歴史と風情を漂わせる。

源助柱記念碑



平成8年度に松江市によって整備され、ポケットパークとして蘇った。碑等をバランスよく配置しており、古き良き「水郷 松江」の雰囲気現代に再現している。

石屋古墳



大橋川の南側、東光台住宅団地の東端にある一辺40m以上の方墳で、古墳時代中期に造られたと考えられる。

手間古墳



大橋川の南側、竹矢町の北端にある全長67mの前方後円墳である。

手間天神社



大橋川下流部に位置する塩桶島内部にある神社。

図3-1 観光・歴史的景観要素分布図



3-3. 生活・文化面からみた景観要素

生活・文化面からみた景観要素としては、大橋川と沿川住民の関わりの深さを表す川沿いの宅地や道路、護岸を抽出した。また、古くから渡し船として沿川住民に利用されてきた「矢田の渡し」も景観要素として抽出した。

一方、大橋川はシジミの漁場であるとともに、釣り、散策等のスポットとして生活に欠かせない場であることから、大まかなシジミの漁場の範囲やゴズ（ハゼ）釣りが行われるスポットも景観要素として抽出した。

表3-3 生活・文化面からみた景観要素

上流部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 兩岸とも川に隣接する形で宅地・商業施設等が密集している。 ・ シジミの選別が行われているコンクリート護岸やヤナギ並木のイメージにあった石積み護岸など場所ごとに異なる護岸が続く。 ・ 大橋から新大橋の左岸沿いは、郷土民謡「安来節」の一節「松江大橋 柳の雨に わたしやあなたを濡れて待つ」で登場するヤナギ並木となっており、市民の散策の場等として親しまれているとともに大橋川を代表する景観となっている。（第3回島根景観賞まち・みどり部門奨励賞受賞） ・ 沿川は、道路が接している箇所や商業施設、駐車場等が接している箇所が混在している。 ・ 宍道湖大橋から大橋の沿川一体は、地域住民の散策スポット等のレクリエーションの場として機能している。 ・ 特産品であるシジミの漁場として機能している。 ・ 毎年夏に開催される松江市民レガッタの会場となる。
中流部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 右岸側は集落が川に隣接している範囲が多い。 ・ 右岸沿いはコンクリート護岸が長く続き、その背後は管理用通路となっている部分が多い。 ・ 特産品であるシジミの漁場として機能している。 ・ 右岸側を中心にゴズ（ハゼ）釣りが行われる。
下流部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川の両岸に集落が隣接している。 ・ 「矢田の渡し」があり、地域の人・物質が川を横断する。 ・ 右岸側は、コンクリートを中心にした護岸が続き、隣接する形で市道が位置する。 ・ 右岸側を中心にゴズ（ハゼ）釣りが行われる。



水辺の建造物 (宅地・集落、商業施設等)	大橋川のほとりに長年、居を構え、川とともに生活を営んできた歴史を感じさせる。
レクリエーションの場 (主な散策スポット)	既往アンケートの結果からもわかるように、地域住民の利用頻度も高い大橋周辺はヤナギ並木に代表されるように地域の「癒しの場」として親しまれている。
レクリエーションの場 (主な釣りスポット)	散策などに利用されるだけでなく、川のところどころでゴズ(ハゼ)釣りが楽しまれている。
護岸(主な石積み)	明度のばらつきがやや目立つものの、護岸の見えの高さが小さく水面との距離も比較的小さい。
主な沿川道路	上、下流の一部を除き、右岸側を中心に位置し、景観を支配するような目立ったものはない。

- 凡例
- - - レクリエーションの場 (主な散策スポット)
 - レクリエーションの場 (主な釣りスポット)
 - 水辺の建造物 (宅地・集落、商業施設等)
 - シジミの漁場
 - 公園・緑地
 - 渡し舟(「矢田の渡し」)
 - 護岸(主な石積み)
 - 主な沿川道路
 - 松江市民レガッタコース

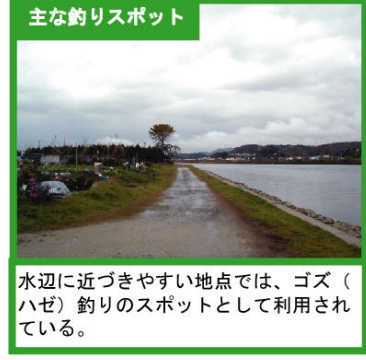
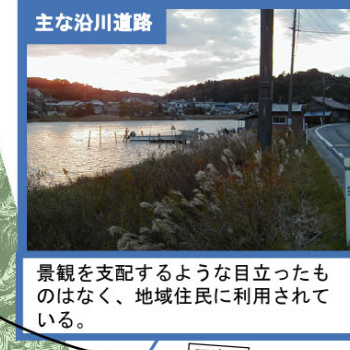
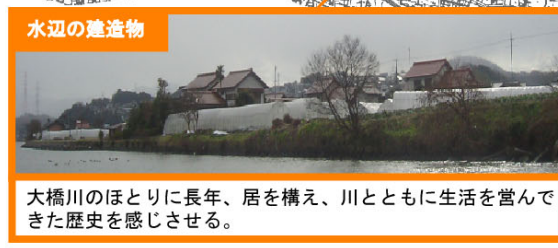


図3-2 生活・文化的景観要素分布図



3-4. 自然面からみた景観要素

自然面からみた景観要素としては、大橋川沿川の自然の豊かさを象徴する植生とともに水の流れを自然的要素として抽出した。また、水田などの農地も中心市街地の景観に対して、うるおいを与える「二次的自然」とみなして抽出した。さらに大橋川の背後にあり、市民がハイキングにも利用する嵩山、和久羅山の稜線も要素として抽出した。

表 3 - 4 自然面からみた景観要素

上流部	<ul style="list-style-type: none">・くにびき大橋の上流側の中の島水際部には、ヨシ等の湿生植生がみられる。
中流部	<ul style="list-style-type: none">・剣先川と大橋川に挟まれた中の島および朝酌川と剣先川に挟まれた中州や松崎島は、農業振興地域に指定され、水田が広がっている。また、水際部を中心にヨシ等の湿生植生が分布し、水鳥等の生息地として機能している。・左岸側は中の島を挟んで剣先川が、更に剣先川の左岸側は中州を挟んで朝酌川が流れるなど、川と水田・水路などが織り成す大橋川独特の自然景観が広がる。・右岸側の松江港などから左岸側をみた場合、背後に嵩山、和久羅山からのびる稜線も確認できる。
下流部	<ul style="list-style-type: none">・左岸側の一体は農業振興地域で、特に最下流部の 1 km 程度は、農用地区域となっており、水田が広がっている。・左岸側の多賀神社周辺はシイなどの常緑広葉樹からなる鎮守の森が残されている。・最下流部左岸側の数百メートルの区間はヨシ等の湿生植生などが広がり、水鳥等の生息地としても機能している。
全区間	<ul style="list-style-type: none">・水の流れは、比較的ゆるやかである。・水面から護岸上部までの差高が小さい。

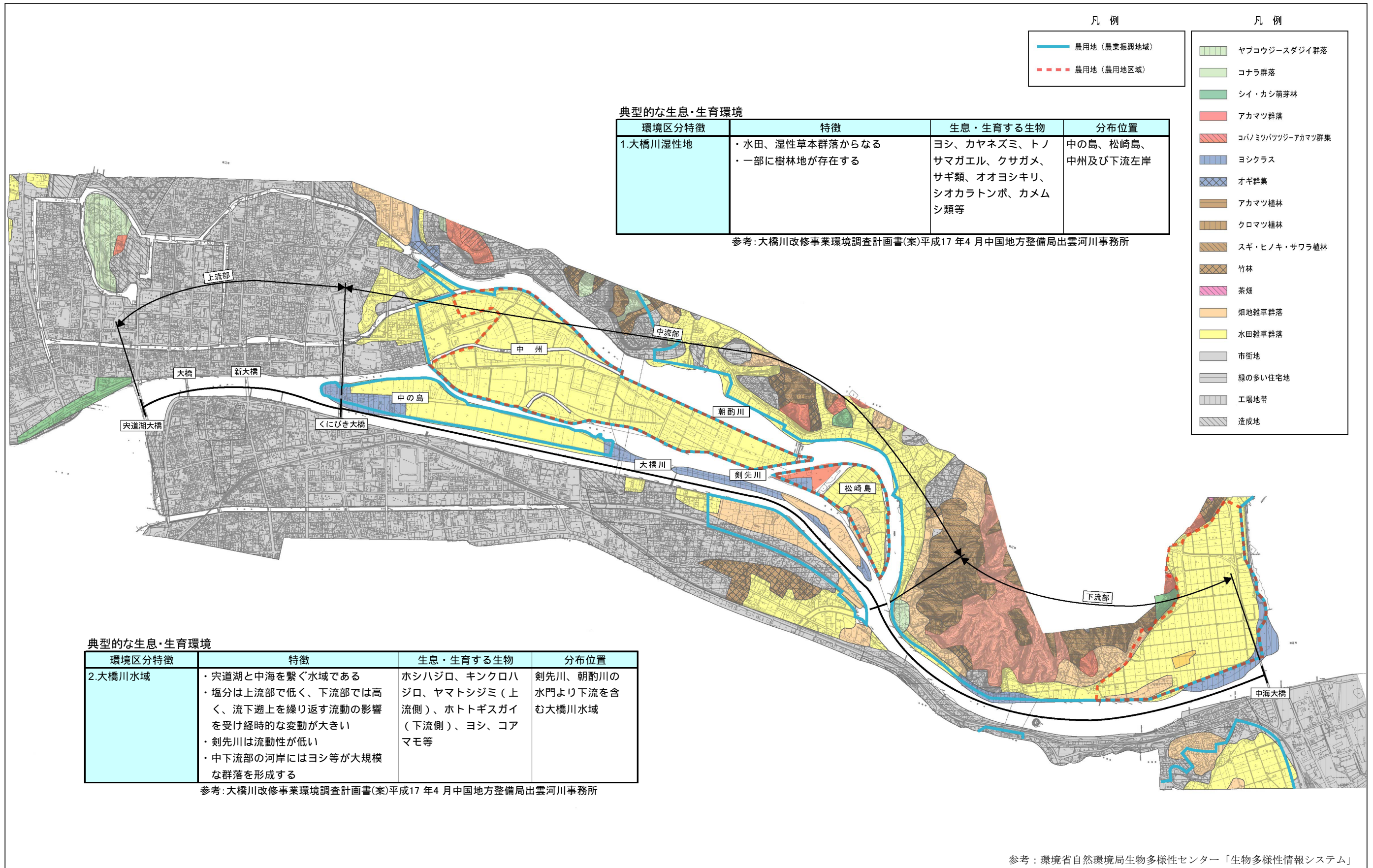


図3-3 自然面からみた沿川現況図



4. 大橋川の現況景観のまとめ

4-1. 景観を構成する要素の整理

2～3において抽出された大橋川の景観に関する構成要素を以下に整理した。

観光・歴史的要素は、上流部と下流部に多く分布し、特に上流部に有形・無形含め多くの要素がみられた。

生活・文化的要素は、全区間に分布するが、上流部に比較的多くの要素がみられた。

自然的要素は、中流部および下流部に多く分布し、上流部は相対的に少なかった。

表4-1 景観要素の整理

	上流部	中流部	下流部
観光・歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・神社・仏閣 ・各種観光施設 ・橋梁（大橋） ・老舗の旅館等 ・公園（源助公園等） ・宍道湖観光遊覧船の航行 ・ホーランエンヤ ・水郷祭 ・どう行列 	<ul style="list-style-type: none"> ・宍道湖観光遊覧船の航行 ・ホーランエンヤ 	<ul style="list-style-type: none"> ・多賀神社 ・手間天神社（塩橋島） ・古墳（手間古墳、石屋古墳、魚見塚古墳） ・「矢田の渡し」 ・大橋川周遊遊覧船 ・ホーランエンヤ
生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・宍道湖大橋から大橋周辺の散策スポット ・宅地・商業施設の隣接 ・護岸（石積み、コンクリート） ・植栽（ヤナギ並木） ・沿川道路 ・シジミの漁場 ・松江市民レガッタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・宅地・商業施設の隣接（一部区間） ・護岸（石積み、コンクリート） ・沿川道路 ・シジミの漁場 ・ゴズ（ハゼ）釣りスポット 	<ul style="list-style-type: none"> ・「矢田の渡し」 ・宅地・商業施設の隣接（一部区間） ・沿川道路 ・ゴズ（ハゼ）釣りスポット ・護岸（コンクリート）
自然	<ul style="list-style-type: none"> ・中の島の湿生植生 ・緩やかな水の流れと水面の近さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・中の島、中州、松崎島の水田 ・中の島、中州、松崎島水際付近の湿生植生と水鳥等の生息地 ・緩やかな水の流れと水面の近さ ・嵩山、和久羅山からのびる稜線 	<ul style="list-style-type: none"> ・左岸側の水田 ・多賀神社の鎮守の森 ・湿生植生と水鳥等の生息地 ・緩やかな水の流れと水面の近さ

4-2. 大橋川の景観特性の整理

①眺めのタイプ

4-1 でまとめられた大橋川沿川の景観要素を実際の「眺め」から検討し、区域ごとの景観特性を整理した。なお、特性の整理にあたっては、河川景観の「眺め」のタイプとして代表的な下記4タイプから行った。

<河川景観の眺めの4タイプ>

流軸景：橋の上などから、流れの方向に向かって河川を見る眺め。

対岸景：流れの方向とほぼ垂直に対岸方向を見る眺め。

俯瞰景：河川空間外の高い地点から一望をもとにおさめる眺め。

水上景：船などに乗って人が水上を移動し、その移動に伴って徐々に変化していく河川の景観を楽しむ眺め。

<参考>視点場の考え方

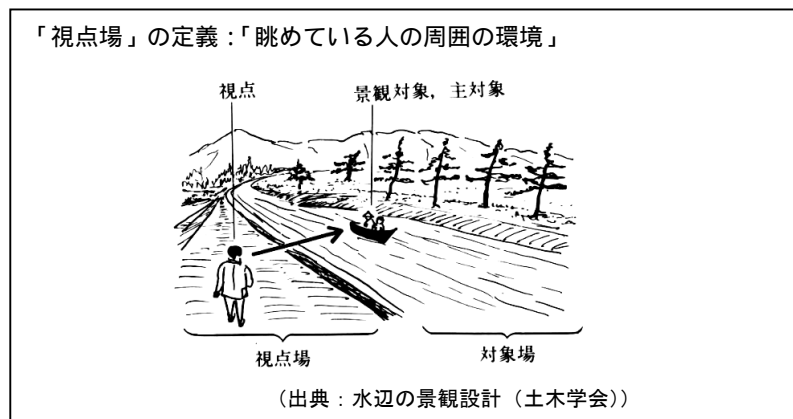


図 4-1 視点場の定義

表 4-2 眺めのタイプ別の景観の特徴と景観形成上のポイント

項目	景観の特徴と景観形成上のポイント
流軸景	川の流れの方向に向かって河川を見る眺めのタイプ。奥行感のある眺めが得られ、護岸の平面形状に注意がいきやすい。
対岸景	川の流れの方向とほぼ直角に対岸方向を見る眺めのタイプ。すべてが帯状に重なった平板な眺めになりやすく、護岸の大きさに注意が行きやすい。
俯瞰景	川とその周りの広い範囲を一望のもとにおさめる眺めのタイプ。川の全体的な形と周囲の関係が意識され、護岸の大きさや細かな表情は認識できない。
水上景	船などに乗って移動しながら変化する川の景観を楽しむ眺めのタイプ。護岸や堤防を近くから見上げる眺めとなるため、護岸の細かな表情までが認識しやすい。

(出典：「川の風景を考える 景観設計ガイドライン(護岸)」(財団法人リバーフロント整備センター))

②考察の範囲の設定

で4タイプの眺めに当てはまる以下の視点場を設定し、考察を行った。

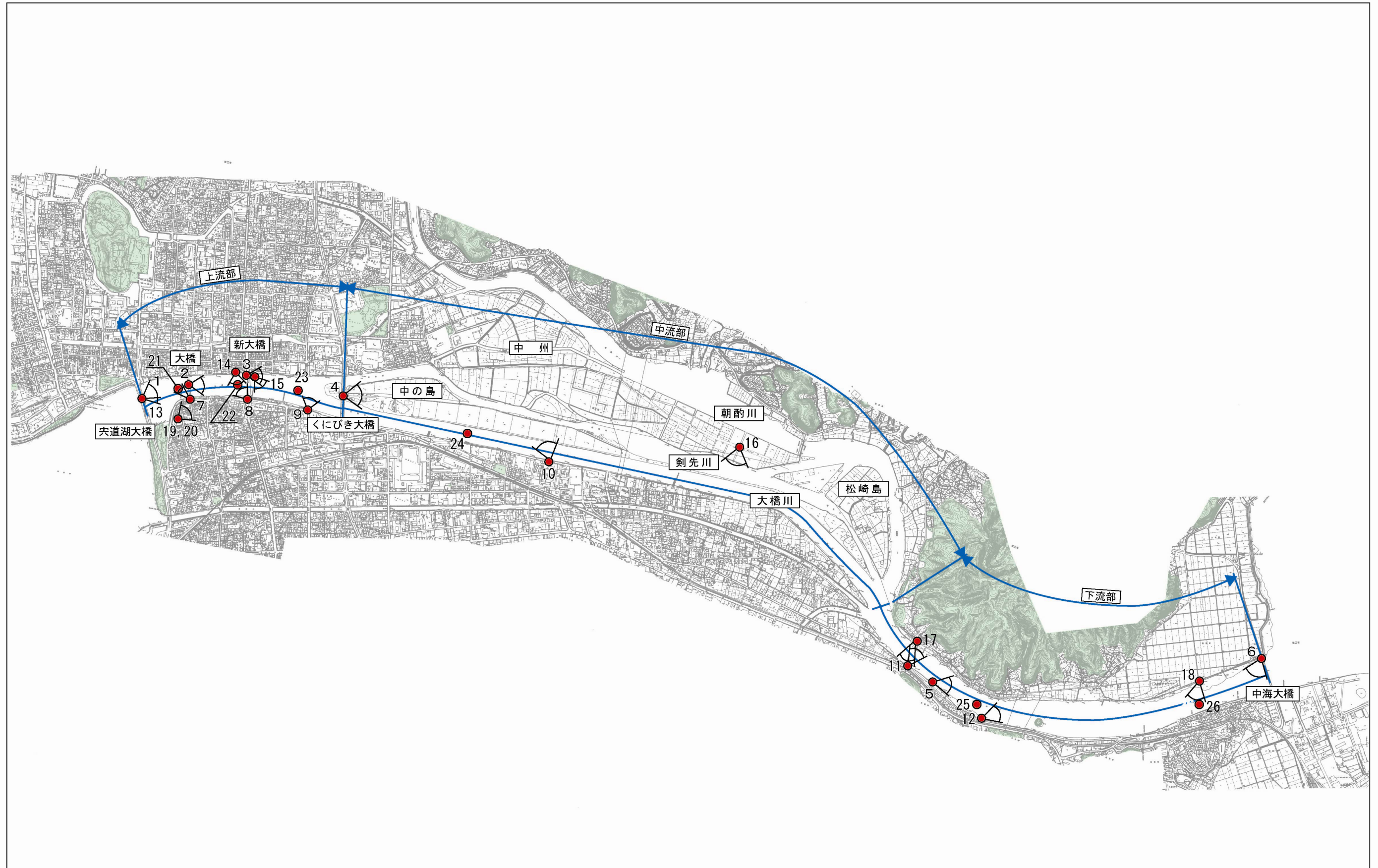


图 4-2 視点場位置图

③景観特性に関する考察

表 4-3 景観特性整理表

範囲	流軸景の特徴的事項	対岸景（左岸側）の特徴的事項	対岸景（右岸側）の特徴的事項	俯瞰景の特徴的事項	水上景の特徴的事項
上流部	<p>< 1 . 宍道湖大橋付近を視点場とした場合 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 大橋川の特徴である呑み口部から大橋にかけての緩やかな線形とともに大橋の歴史を感じさせる欄干も確認できる。 右岸側には高層の山陰合同銀行本店ビルが位置する。 左岸側は、老舗旅館や旅館の庭園等が位置する。 左岸側背後には、嵩山、和久羅山からのびる稜線も確認できる。 	<p>< 7 . 宍道湖大橋～大橋 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 老舗の旅館やホテル、また、（大橋からは）松江城も確認でき、松江市の歴史を感じさせる眺めとなっている。 一方で、商業ビルや看板なども見受けられる。 また、護岸の見えの高さも大きく、石積みとコンクリートの材質の違いがやや目立っている。 	<p>< 13 . 宍道湖大橋～大橋 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 低層ならびに山陰合同銀行本店ビルに代表される高層のビルが混在している。 護岸に関しては、ほとんどがコンクリートで整備されている。 	<p>< 19 . 宍道湖大橋～くにびき大橋 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 沿川の橋南、橋北での差異はほとんどなく、全体を通して低層と高層の建造物の混在が確認できる。 大橋から新大橋にかけての右岸側では、昔ながらの松江の商業地の町並みが見られる。 大橋川は、市の中心部を流れ、生活空間に近く、水面への視界も良い川であることを感じさせる。 	<p>< 21 . 宍道湖大橋～大橋 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 水の流れに沿って、下流方向には大橋が架かり、その特徴である御影石の欄干、擬宝珠がはっきりと確認でき、松江市の歴史性を感じさせる。 大部分の範囲でコンクリートの護岸が間近に見える。 
	<p>< 2 . 大橋付近を視点場とした場合 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 川とその背後の建物の距離が非常に近い。 護岸に関しては、見えの高さが小さく、水面への視線を遮る構造物も少ない。 新大橋や中の島、左岸側背後の嵩山、和久羅山からのびる稜線も確認できる。 	<p>< 8 . 大橋～新大橋 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 老舗旅館、見えの小さい護岸、ヤナギ並木、おだやかな水の流れなどが特徴となっている。 周辺のビルは極端な高さのものではなく、同程度の高さで並んでいる。 	<p>< 14 . 大橋～新大橋 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 小規模の商業施設が密集し、企業の看板なども見つけられる。 一方、売布神社境内の緑がアクセントとなっている。 新大橋付近は、川沿いが公園として整備され、護岸の見え、水面との差高が非常に小さい。 	<p>< 22 . 大橋～新大橋 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 左岸側は、老舗旅館、見えの小さい護岸、ヤナギ並木、おだやかな水の流れなどが特徴となっている。 特に石積み護岸の表面形状もはっきりと確認できる。 	
	<p>< 3 . 新大橋付近を視点場とした場合 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 新大橋付近は、昔ながらの住宅などが存在し、水際では、シジミの選別などが行われている。 くにびき大橋付近ではマンションや高層・低層の商業ビルが目立つ。 くにびき大橋付近から始まる中の島の緑は、自然の豊かさを感じさせる。 左岸側背後には、嵩山、和久羅山からのびる稜線も確認できる。 	<p>< 9 . 新大橋～くにびき大橋 ></p> <ul style="list-style-type: none"> マンション、ガスタンク（撤去中）、近代的建造物（公共施設）などが混在した都市化を感じさせる眺めとなっている。 一方で、新大橋付近には宅地、公園などが存在し、松江市民の生活・文化を感じさせる。 護岸は、石積み、コンクリート、蛇籠など、地点ごとに違いがみられる。 	<p>< 15 . 新大橋～くにびき大橋 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 背後に松江駅が位置し、（利便性の高さなどから）高層、低層の商業ビルが混在する。 新大橋付近は、川沿いが公園として整備され、護岸の見え、水面との差高が非常に小さい。 	<p>< 23 . 新大橋～くにびき大橋 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 右岸側新大橋付近は、川沿いが公園として整備されている。 特に宍道湖遊覧船の乗場付近は、護岸の見えの高さも小さいことから、水との近さを感じさせる。 左岸側の新大橋付近は、川に面した住宅が建ち並び、人々の生活の営みを身近に感じる景観となっている。 	
中流部	<p>< 4 . くにびき大橋を視点場とした場合 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 上流側と異なり、左岸側は河川に隣接した高層ビルなどがなく、水田や緑地などが中心の自然豊かで開放的な眺めとなる。 右岸側には松江港や商業施設、左岸側背後には和久羅山からのびる稜線も確認できる。 	<p>< 10 . くにびき大橋～朝酌川合流点 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 中の島、中州、松崎島が位置し、ヨシなどが繁茂しており、自然の豊かさを感じさせる。 くにびき大橋の背後には、郊外型の比較的新しい建造物が立ち並び、さらに背後には島根半島の山々からのびる曲線的な稜線が確認できる。 朝酌川合流点付近には、マツ林やスギ林に囲まれた集落がみられる。この辺りでは、上流ほど川幅が広くないため、対岸の中の島の護岸の見えの高さがやや大きく感じられる。 	<p>< 16 . くにびき大橋～朝酌川合流点 ></p> <ul style="list-style-type: none"> くにびき大橋付近では、川沿いやその背後に、大小の商業施設やマンションなどが混在する。 下流に近い地点では川沿いの宅地とともに農業用のビニールハウスが確認できるなど生活感を感じさせる。 背後には星上山からのびている稜線も確認できる。 	<p>< 20 . くにびき大橋～朝酌川合流点 ></p> <ul style="list-style-type: none"> くにびき大橋付近から下流部にかけて広がる中の島や中州の水田は、自然の豊かさを感じさせる。 左岸側背後には、嵩山、和久羅山からのびる稜線も確認できる。 中の島や中州の緑がアクセントとなっており、大橋川独自の個性的な眺めを作り出している。 	<p>< 24 . くにびき大橋～朝酌川合流点 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 左岸側には、中の島の水田や緑地とともにその周辺で生息する水鳥などの生物も確認でき、大橋川の豊かな自然を間近に見ることができ。 下流側に近づいていくと朝酌川、剣先川が大橋川と合流し、開放的な空間の変化を感じさせる。 
	<p>< 5 . 朝酌川合流点付近を視点場とした場合 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 左岸に丘陵が迫るとともに、流路が蛇行しており、中流部のような開放感はない。 河道内の右岸より塩橋島が位置し、景観にアクセントを与えている。 川沿いに宅地が分布し、護岸と水面との差高は小さい。左岸側の集落は建物の高さ、屋根瓦の色彩にばらつきが少ない。 	<p>< 11 . 朝酌川合流点～塩橋島付近 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 多賀神社と周辺のマツ、スギ林、周辺に広がる民家と差高のない水面などが特徴となっている。 また、中の島を挟んで剣先、朝酌の両河川があった中流部と比較し、対岸が近距離に感じられる。 「出雲国風土記」にも記載されている「矢田の渡し」が位置し、人と川との深いつながりを示すとともに、船着場や船が眺めにアクセントをあたえている。 	<p>< 17 . 朝酌川合流点～塩橋島付近 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 宅地や沿川道路が分布する。その背後にはマツ林や丘陵がみられ、一部の丘陵地帯には宅地（住宅団地）も見受けられる。川沿いの宅地には、比較的新しいものも見受けられる。 「矢田の渡し」が位置する。 	<p>< 25 . 朝酌川合流点～塩橋島付近 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 川の中心部に塩橋島が位置し、個性的な眺めとなっている。 また、塩橋島の周辺では水鳥も多く確認され、大橋川の豊かな自然を間近に見ることができる。 	
下流部	<p>< 6 . 中海大橋を視点場とした場合 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 視点場として高さがあり、俯瞰景に近い雄大な眺めとなる。 左岸側一体が水田地帯となっており、開放的な眺めとなっている。 左岸側には、ヨシなどの湿生植生もみられ、自然の豊かさを感じさせる。 右岸側は管理用通路を挟んだすくの川沿いに比較的大きな集落があり、生活感を感じさせる眺めとなっている。 	<p>< 12 . 塩橋島付近～中海大橋 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 河川内に塩橋島（島内には手間天神社あり）が位置し、景観上のアクセントとなっている。 塩橋島付近の左岸沿いの民家、差高のない水面、背後のマツ林などが特徴となっている。 塩橋島より下流はヨシ原となっており、自然の豊かさを感じさせる。 	<p>< 18 . 塩橋島付近～中海大橋 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 中海大橋付近の川沿いには、昔ながらの集落があり、屋根の高さなどにも統一感がある。 護岸に関しては、石積み（空石）やコンクリートなど場所ごとに違いがみられる。一方で、見えの高さは小さく、水面の近さを感じさせる。 塩橋島付近より下流の右岸側は工場や宅地、道路の高架などがある。塩橋島は左岸側と同様、景観のアクセントとなっている。 背後には星上山からのびている稜線が確認できる。 	<p>< 26 . 塩橋島付近～中海大橋 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 最下流には中海大橋が架かっており、その大きさを感じさせる。 また、左岸側の湿生植生やその周辺で生息する水鳥など、大橋川の豊かな自然を間近に見ることができる。 	

※表内番号は前頁図4-2の視点場番号に対応している。

④ 景観特性区分

「 景観特性に関する考察」の結果から、大橋川の現況景観を以下のような特性に区分する。

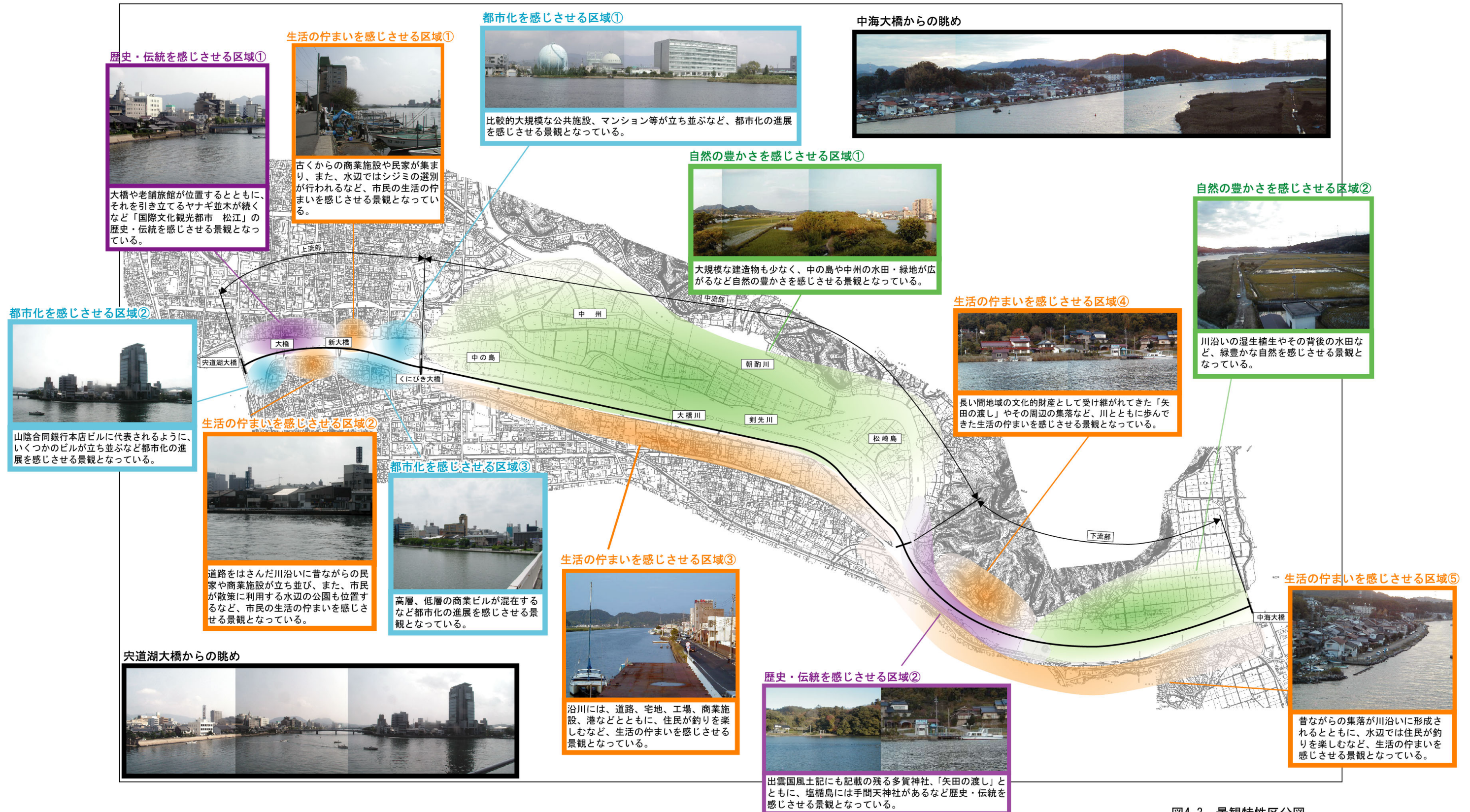


図4-3 景観特性区分図

0 250m

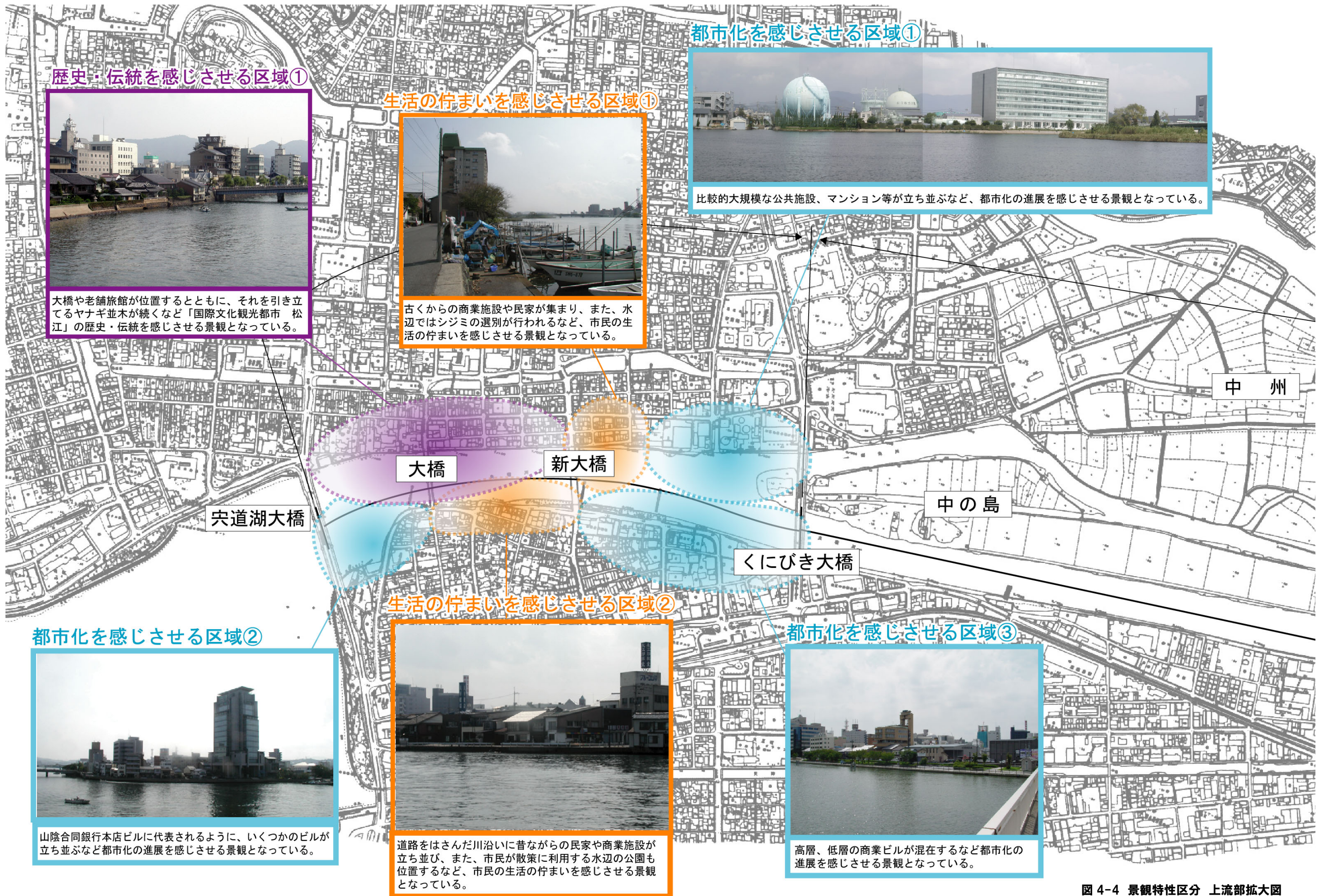


図 4-4 景観特性区分 上流部拡大図

5. 景観特性を踏まえた事業実施のポイント

2～4で整理された現況景観の特性を踏まえ、今後の治水・まちづくり事業によって注目すべきポイントとしては以下のようなものが考えられる。

表5-1 治水・まちづくり事業において注目すべきポイント一覧

景観要素		注目すべきポイントの内容	
老舗の旅館等	大橋川をほとりで見続けてきた歴史的資源	<ul style="list-style-type: none"> 建物と水面、護岸、植栽等のバランス 	
現況橋梁・道路	大橋に代表される重要な景観要素	<ul style="list-style-type: none"> 橋梁の印象 周辺景観とのバランス ほとりの静けさ・佇まい 	
川沿いの神社・仏閣、古墳等	古くから守られてきた地域資源	<ul style="list-style-type: none"> 建物ならびに周辺環境（状況） 水面との距離感 	
川沿いの公園	市民の憩いの場として利用される施設	<ul style="list-style-type: none"> 水面との距離感 	
「矢田の渡し」	「出雲国風土記」にも記載されるなど「地域の歴史・文化的財産」	<ul style="list-style-type: none"> 船着場へのアプローチ 	
川沿いの集落	川とともに歩んできた生活の佇まい	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた印象や独特の街並み 沿川住民と川との距離感（関係） 	

景観要素		注目すべきポイントの内容	
つりスポット	地域住民の憩いの場	<ul style="list-style-type: none"> 水面へのアプローチ 	
ヤナギ並木	長年、市民に親しまれてきた散策路	<ul style="list-style-type: none"> ヤナギ並木の印象 水面との距離感 護岸とのバランス 	
護岸背後からの水面の「見え」	場所によって、一区画、二区画背後からも確認できる水面	<ul style="list-style-type: none"> 水面の「見え」 沿川住民と川との距離感（関係） 	
水際植生	豊かな自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 水際部の印象 	